

# 「デジュール及びフォーラム標準に関する国際標準化動向調査」 調査者の募集

## 1. 募集の背景

総務省では、デジュール及びフォーラム標準に関する標準化活動を支援することとし、標準化動向の詳細調査を行う者（以下、調査者）の選定をする業務請負者の募集を行いました。一般社団法人情報通信技術委員会（以下、TTC）はこの調査者選定の業務を総務省より受託し、調査者募集を行うものです。

## 2. 募集内容

### (1) 調査者の募集を行う標準化テーマ等

2020年度の国際標準化の動向調査を行う調査者を募集します。募集する標準化テーマ、標準化機関・団体は、別紙1の技術分野や標準化機関・団体とします。

### (2) 対象者

国際標準化活動への参加を通して技術展開を継続的に図る意図を有する方のうち、表に記載する条件を満たす方が動向調査を行う会合等の参加者となる場合を対象とします。

- ・ 提案者は、大学、研究機関、ならびに中小企業を含む企業等に属する個人または研究室等グループとします。
- ・ 国際標準化活動および動向調査を実施する上で支援を必要とする方を対象とさせていただきます。
- ・ 他機関からの助成等の支援対象となっている場合は対象外とします。
- ・ B区分の中では、優先順位は、B-1、B-2、B-3の順とします。

調査者区分	活動目的	調査者の想定イメージ
A	標準化の主導権・プレゼンスの維持	国際標準化機関・団体やその下部研究委員会等において議長・副議長等の役職者を務める者、または標準化を主導する役割を担う者
B-1	標準化を推進する予定の者	標準化機関・団体に具体的な提案の提出等を予定しており、主導的な立場で標準化を推進する予定の者
B-2		国際標準化活動の経験を有し、新規標準化分野の推進に向けて、情報の収集を目的として国際標準化機関・団体への参加を予定する者 (具体的な提案を予定する者は区分B-1に該当)
B-3		継続的な標準化活動の維持を目的とした、標準化動向の調査を行う者
C	長期的な国際標準化人材の育成	国際標準化に関心を有するが、国際標準化活動の経験がなく、今後継続して国際標準化活動に従事することが見込まれる者

なお、表に記載の条件以外であっても、必要に応じて選定される場合があります。別途、ご相談ください。

### (3) 支援内容

- ・ 調査報告書作成費、および調査に係る費用または費用の一部を支援します。  
(調査対象標準化機関・団体にて実施される会合参加などに関わる直接的費用)
- ・ 支給額については、1件当たり概ね100～150万円程度（2020年度の活動期間内）とお考えください。必要がある場合は、上限を越える支給要望額を提案頂いても結構です。
- ・ 支援する動向調査項目と費用については、選定にあたり確認、精査させていただきます。支援の必要性が低いと判断される場合は、支援額を減額することがあります。
- ・ 渡航費、滞在費等の算出にあたっては総務省旅費規程を参照願います。同規程の基本的な事項については別紙2をご覧ください。

(参考) 動向調査項目と費用のモデルケース(費用内訳および算出根拠等については提案書に記載していただきます)

調査活動項目および参加者	概算費用および算出根拠	金額
〇〇フォーラム第〇回〇〇会合 ・〇〇国〇〇市、〇月〇日～〇日、5日間 ・参加者氏名:〇〇 〇〇	・渡航費:240,000円 ・滞在費等:720ユーロ(90,000円) ・参加費等:100ユーロ(12,500円)	342,500円
〇〇フォーラム第〇回〇〇会合 ・〇〇国〇〇市、〇月〇日～〇日、5日間 ・参加者氏名:〇〇 〇〇	・渡航費:240,000円 ・滞在費等:720ユーロ(90,000円) ・参加費等:100ユーロ(12,500円)	342,500円
〇〇フォーラム第〇回〇〇会合 ・〇〇国〇〇市、〇月〇日～〇日、5日間 ・参加者氏名:〇〇 〇〇	・渡航費:240,000円 ・滞在費等:720ユーロ(90,000円) ・参加費等:100ユーロ(12,500円)	342,500円
調査報告書作成費	・〇〇〇〇(報告書作成者氏名) 41,600円(准教授相当)×5人日	208,000円
小計		1,235,500円
間接的費用	<input checked="" type="checkbox"/> 必要(大学)(一律合計の10%) <input type="checkbox"/> 不要(大学)、対象外(大学以外)	(一律小計の10%)
合計		1,359,050円

(4) 調査者に実施いただくこと、調査の際の留意点

- ・ 調査者として選定された提案者と動向調査項目、支援内容と支給額の調整を行った上で、動向調査活動に関する業務委託契約を提案者の所属先と締結します。
- ・ 調査者には契約に基づいて調査活動を行い、調査結果をまとめた報告書(20ページ程度)と、発表用資料を作成していただきます。
- ・ 調査にあたっては、可能な限り、標準化会合の参加者等とコミュニケーションをとり、会合参加者等の動向等も調査してください。
- ・ 有識者による標準化活動支援を検討する委員会(以下、「イノベーション推進委員会」という。)で報告いただく他、必要に応じセミナー等で発表していただきます。
- ・ 報告書は、以下の点を盛り込んで作成してください。
  - 調査の概要。調査対象テーマとその重要性、調査の技術分野、出席した会合、調査者名など。
  - 調査した標準化機関・団体の概要、調査テーマに対して対象標準化機関・団体とする必要性。
  - 調査対象テーマに関する国内外の状況。調査機関における今までの活動経緯、関連する他機関の活動動向、日本における状況など。
  - 調査した標準化機関・団体における標準化動向。可能な範囲で、会合参加者(企業名)や参加者の標準化の目的・主張など。
  - 活動成果、活動を通して得られた各種知見  
活動成果として、寄書やユースケースの提案、規格化した案件の概要、エディタや議長などの役職、標準化機関・団体への貢献など(アウトプット)、並びに、今回の調査の活動成果や標準化案件の産業及び社会に対する貢献、意義・位置づけなど(アウトカム)も記載。
  - 今後の標準化の展望と我が国に求められる取組み。今後の方向性、課題、提言など。
- ・ イノベーション推進委員会で、他の調査者の報告を聞くことができます。
- ・ 調査結果は、総務省への報告作成に活用します。調査結果の報告や報告書等(ソフトウェアを含む)の著作権等は総務省に帰属します。

(5) 調査支援費用のお支払いに関して

- ・ 調査支援費用をお支払いするために、期限内に必要な書類の提出をお願いします。
  - 領収書、搭乗券の半券(搭乗確認ができるもの)や航空券の残券(Eチケットのプリントアウト等)、等の証拠書類、経費調書
  - 証憑書類等については、年度途中で確認をお願いすることがあります。
- ・ 証拠書類等を含む経費調書が期日までに提出されない場合は、費用の支払ができない場合がありますので、ご注意ください。
- ・ 締切り間際に証拠書類が不十分な、あるいは支払対象費用以外の費用が含まれる証憑書類が提出

されることのないようにご注意をお願いいたします。

### 3. 調査者の選定方法

イノベーション推進委員会の助言に基づき、TTC が選定します。選定に当たっては、次の点を基準として評価いたします。

#### (1) 調査内容

##### ① 本件調査目的・趣旨との適合性

- ・提案内容が募集要項に示す技術分野等と整合しているか。

##### ② 調査の必要性

- ・提案内容は、緊急に取り組むべき優先性・公共性が高いか。
- ・提案内容の成果が我が国の発展・課題解決に寄与できるか。

##### ③ 調査の優位性

- ・提案内容が先進性・独創性の観点で優れているか。
- ・調査内容が具体的に示されており、その内容は的確か。
- ・我が国の発展・課題解決に対し効果的な調査となっているか。

##### ④ アウトプットの達成に向けた提案

- ・アウトプットの達成目標が明確に示されているか。

##### ⑤ アウトカムの達成に向けた提案

- ・アウトカムの達成目標が明確に示されているか。
- ・アウトカム達成に向けた取組計画（事業化計画、体制、資金等）は具体的かつ実効的か。
- ・今後につながる内容となっているか。

#### (2) 調査計画

##### ○ 計画の効率性

- ・提案された手法が、費用対効果、作業効率等の観点で優れているか。
- ・提案された計画が、無理なく適切なものとなっているか。

#### (3) 調査体制

##### ○ 体制の効率性

- ・調査者の能力・実績等は、調査当たって支障が無いと考えられるか。
- ・（1提案において複数人調査する場合）体制は適切であり、役割分担が明確に示されているか。

#### (4) その他

##### ○ 考慮事項

- ・他の国際標準化機関・団体、国際標準化案件への波及効果が期待される提案か。
- ・調査後の情報発信・普及展開が期待できる提案か。
- ・我が国の標準化人材の確保・育成に寄与する提案か。
- ・我が国の国家プロジェクトとして進められてきた案件と関連し、かつ優れた提案か。

(※) 調査者区分Cの提案は、その他の区分とは別枠で審査することとし、その他の区分の提案と比較した審査は行いません。

### 4. 応募（提案）方法について

(1) 添付の提案書テンプレートの記載項目に基づき、提案書の作成・提出をお願いします。

提案書はWord形式で、提案内容の詳細や補足するための添付資料はTTCにおいて閲覧可能な形式(PDF、PowerPoint、Word、Excel ファイル等)で提出してください。

#### (2) 募集期間

2020年2月4日(火)～2020年2月28日(金) 17:00(必着)

#### (3) 提出先

一般社団法人情報通信技術委員会 (TTC) 「デジュール及びフォーラム標準に関する国際標準化動向調査」公募担当宛にメールを送付ください。

#### (4) 問い合わせ先

一般社団法人情報通信技術委員会 (TTC)

「デジュール及びフォーラム標準に関する国際標準化動向調査」公募担当

koubo@ttc.or.jp

#### 5. 公募および調査活動に関するスケジュール

- ・現時点で予定しているスケジュールは以下の通りとなります。

項目	日程（予定）
提案書の募集締切	2月28日（金）17:00（必着）
提案書の内容確認	提案書受領後～3月4日（水）
調査者の選定（順位付け）	3月6日（木）

3月6日以降のスケジュールについては、総務省のHPに掲載される予定の報道発表(2月4日予定)をご覧ください。

- (※) 調査費用についての支援（支払い）は、原則年度末に精算することとします。事情により支払い時期にご要望がある場合は、提案書に記載して下さい。

#### 6. 留意事項

本公募は、令和2年度予算成立後速やかに開始できるよう、予算成立前に実施するものです。したがって、予算成立状況に応じて内容に変更があり得ることをあらかじめ御了承ください。

#### 7. お問い合わせ先

一般社団法人 情報通信技術委員会（TTC）

「デジュール及びフォーラム標準に関する国際標準化動向調査」公募担当

大友 克彦、金子 麻衣

E-mail:koubo@ttc.or.jp

Tel:03-3432-1551

(別紙 1)

## 標準化動向調査対象の技術分野および標準化機関・団体

重点領域	技術分野	標準化機関・団体 (上段:デジュール標準化機関、 下段:フォーラム標準化機関・団体)
統合 ICT 基盤領域 (膨大な「モノ」を確実に つなぐ共通基盤技術の標準化)	①物理ネットワーク層 <input type="checkbox"/> 光ネットワーク <input type="checkbox"/> 無線アクセス	ITU-T SG15  IEEE, 3GPP, NGMN, LoRa, MulteFire Alliance, ZigBee, BBF, MEF, MoCA, FSAN, HomeGrid Forum, HPA, Wi-Fi Alliance, Z-wave Alliance, EnOcean Alliance, Bluetooth SIG, OPEN Alliance SIG, ZETA Alliance, O-RAN Alliance
	②共通プラットフォーム・マネジメント層 <input type="checkbox"/> 共通プラットフォーム <input type="checkbox"/> ネットワークソフト化 <input type="checkbox"/> セキュリティ・プライバシー <input type="checkbox"/> AI/ML	ITU-T FG-ML5G, FG-QIT4N, FG-NET-2030, SG13, SG16, SG17 ETSI ISG-ENI, ISG-NFV, ISG-ZSM  W3C, IETF, IRTF, IEEE, oneM2M, TMForum, OMG, OASIS, IIC, OCF, OSGi, THREAD, DMTF, TIP, TOG, OpenID, 3GPP, ONF, OIF, OPNFV, FIDO, Kantara, Open ADR, Ethernet Alliance, O-RAN Alliance, ONAP
サービス/ビジネス領域 (共通基盤技術をベースに 新ビジネス・サービスを創出するための標準化)	①固定系 IoT <input type="checkbox"/> スマートホーム <input type="checkbox"/> スマートシティ	ITU-T FG-AI4EE, FG-AI4H, SG20  W3C, IETF, IRTF, IEEE, JSCA, OASIS, ECHONET, OpenADR, FIWARE, Hypercat, IIC, OGF, Wi-SUN, TMForum, Wi-Fi Alliance, Z-wave Alliance, EnOcean Alliance, Bluetooth SIG
	②移動系 IoT <input type="checkbox"/> コネクテッド・カー <input type="checkbox"/> スマートファクトリー	ITU-T FG-AI4AD, FG-VM, SG16  W3C, IETF, IRTF, IEEE, ITS Forum, OPEN Alliance SIG, PCHA, 5GAA, 5G PPP, AECC, 5G-ACIA
	③映像・コンテンツ系 IoT <input type="checkbox"/> デジタルサイネージ <input type="checkbox"/> スマートテレビ	ITU-T SG16  W3C, AOM, HbbTV

注：標準化活動の高い流動性を考慮し、上記の重点領域、技術分野、標準化機関・団体に含まれていない領域、技術分野、標準化機関・団体であっても、イノベーション推進委員会が重点的に調査する必要があると認めた場合は、調査対象となることがある。

## (参考) 標準化機関・団体・組織の略称について

略称	機関・団体・組織の名称
3 GPP	Third Generation Partnership Project
5GAA	5G Automotive Association
5 G-ACIA	5G Alliance for Connected Industries and Automation
5G PPP	The 5G Infrastructure Public Private Partnership
AOM	Alliance for Open Media
AECC	Automotive Edge Computing Consortium
BBF	Broadband Forum
Bluetooth SIG	Bluetooth Special Interest Group
DMTF	Distributed Management Task Force
ECHONET	ECHONET Consortium エコーネットコンソーシアム
EnOcean	EnOcean Alliance
Ethernet Alliance	Ethernet Alliance
ETSI ISG-ENI	Industry Specification Group Experiential Networked Intelligence
ETSI ISG-NFV	Industry Specification Group Network Functions Virtualisation
ETSI ISG-ZSM	Industry Specification Group Zero touch network & Service Management
FIDO	Fast Identity Online Alliance
FIWARE	FIWARE Foundation
FSAN	Full Service Access Network
HbbTV	HbbTV Association
HomeGrid Forum	HomeGrid Forum
HPA	HomePlug Powerline Alliance
Hypercat	Hypercat Alliance
IEEE	Institute of Electrical and Electronics Engineers
IETF	Internet Engineering Task Force
IRTF	Internet Research Task Force
IIC	Industrial Internet Consortium
ITS Forum	ITS Info-communications Forum ITS 情報通信システム推進会議
ITU-T	ITU Telecommunications Standardization Sector
ITU-T FG-AI4AD	Focus Group on AI for autonomous and assisted driving
ITU-T FG-AI4EE	Focus Group on Environmental Efficiency for AI and other Emerging Tech.
ITU-T FG-AI4H	Focus Group on Artificial Intelligence for Health
ITU-T FG-ML5G	Focus Group on Machine Learning for Future Networks including 5G
ITU-T FG-NET-2030	Focus Group on Technologies for Network 2030
ITU-T FG-QIT4N	Focus Group on Quantum Information Technology for Networks
ITU-T FG-VM	Focus Group on Vehicular Multimedia
JSCA	Japan Smart Community Alliance スマートコミュニティ・アライアンス
Kantara	Kantara Initiative
LoRa	LoRa Alliance

MEF	Metro Ethernet Forum
MoCA	Multimedia over Coax Alliance
MulteFire	MulteFire Alliance
NGMN	NGMN Alliance
OASIS	Organization for the Advancement of Structured Information Standards
OAI	Open API Alliance
OCF	Open Connectivity Foundation
OGF	Open Grid Forum
OIF	Optical Internetworking Forum
OMG	Object Management Group
ONAP	Open Network Automation Platform
oneM2M	oneM2M
ONF	Open Network Foundation
Open ADR	Open ADR Alliance Group
OPEN Alliance SIG	OPEN Alliance Special Interest Group
OpenID	OpenID Foundation
OPNFV	Open Platform for NFV
O-RAN Alliance	O-RAN Alliance
OSGi	OSGi Alliance
PCHA	Personal Connected Health Alliance
TIP	Telecom Infra Project
TMForum	TeleManagement Forum
TOG	The Open Group
THREAD	THREAD Group
W3C	World Wide Web Consortium
Wi-Fi	Wi-Fi Alliance
Wi-SUN	Wi-SUN Alliance
ZETA Alliance	ZETA Alliance
Z-Wave	Z-Wave alliance
ZigBee	ZigBee Alliance

(別紙2)

## 総務省旅費規程の基本的事項について

総務省における委託業務契約関係書類は、Webサイトに掲載に掲載されています。「令和元年度委託契約関係書類」となります。なお、「[令和元年度委託契約関係書類](#)」を参考に応募提案のご検討にご活用ください。旅費に関する規程は、[令和元年度委託契約経理処理解説](#)の「Ⅲ－1 旅費」(P60～P66)となります。

注：令和2年度版については、後日総務省のWebサイトに掲載予定です。

## 提案書に記載にあたっての注意事項

以下の記載項目、記載内容や留意事項に従った提案書を Word にて作成すること。なお、添付資料のファイル形式は PDF、PowerPoint、Word、Excel ファイル等 TTC において閲覧可能な形式でお願いします。提案書は全体で 3～4 ページ程度とし、簡潔な記載をお願いします。関連資料がありましたら添付してください。

### 1. 案件名

30 字程度で記載すること

### 2. 調査活動の概要等

#### (1) 調査活動の概要

調査の内容を簡潔に 100 字程度で記載すること。

#### (2) 調査活動の目的

調査の目的を簡潔に 200 字程度で記載すること。

### 3. 技術分野

(以下の領域に属する標準化テーマから関連する分野をチェック (✓) (複数記載可)。なお、標準化活動の高い流動性を考慮し、上記の重点領域、技術分野、標準化機関・団体に含まれていない領域、技術分野、標準化機関・団体であっても、イノベーション推進委員会が重点的に調査する必要があると認めた場合は、調査対象としますので、□その他をチェックしご提案ください。)

統合 ICT 基盤領域 (膨大な「モノ」を確 実につなぐ共通基盤 技術の標準化)	①物理ネットワーク層 <input type="checkbox"/> 光ネットワーク <input type="checkbox"/> 無線アクセス <input type="checkbox"/> その他 ( ) ②共通プラットフォーム・マネジメント層 <input type="checkbox"/> 共通プラットフォーム <input type="checkbox"/> ネットワークソフト化 <input type="checkbox"/> セキュリティ・プライバシー <input type="checkbox"/> AI/ML (人工知能/機械学習) <input type="checkbox"/> その他 ( )
サービス/ビジネス領 域 (共通基盤技術をベ ースに新ビジネス・サ ービスを創出するた めの標準化)	①固定系 IoT <input type="checkbox"/> スマートホーム <input type="checkbox"/> スマートシティ <input type="checkbox"/> その他 ( ) ②移動系 IoT <input type="checkbox"/> コネクテッド・カー <input type="checkbox"/> スマートファクトリー <input type="checkbox"/> その他 ( ) ③映像・コンテンツ系 IoT <input type="checkbox"/> デジタルサイネージ <input type="checkbox"/> スマートテレビ <input type="checkbox"/> その他 ( )

### 4. 調査対象標準化機関・団体

会合参加等により動向調査を実施する対象となる標準化機関・団体を記載すること。  
(記載例) IEEE, W3C

### 5. 調査活動の詳細

#### (1) 調査活動の詳細内容

予定している調査活動の内容を詳細に記載すること。選考の評価基準を確認の上、提案する調査の優位性・重要性等をご説明下さい。

#### (2) 提案 (予定) の有無及びその内容

具体的な提案を調査対象標準化機関・団体に入力する予定がある場合は「有」にチェックし、その提案の内容について簡潔に記載すること。

#### (3) 支援の必要性

支援を必要とする理由を簡潔に 100 字程度で記載すること。

#### (4) その他アピールポイント

その他アピールポイントを簡潔に 100 字程度で記載すること。

### 6. 調査活動のスケジュール等

#### (1) 調査のスケジュール

下記のような形式で、参加会合等具体的な調査活動を記載すること。

時期（予定）	調査活動項目	主な活動予定
2020年〇月〇日～〇日	〇〇フォーラム第〇回〇〇会合参加	〇〇に関する動向収集 〇〇（〇〇議長、〇〇社）と意見交換
2020年〇月〇日～〇日	〇〇フォーラム第〇回〇〇会合参加	〇〇に関する動向収集 〇〇（〇〇議長、〇〇社）と意見交換
2020年〇月〇日～〇日	〇〇フォーラム第〇回〇〇会合参加	〇〇に関する動向収集 〇〇（〇〇議長、〇〇社）と意見交換

(2) 今年度調査のアウトプット目標

今年度調査を行う際の達成すべき目標を100字程度で記載すること。

(3) 来年度以降の標準化活動方針・計画

今年度調査後、提案内容をどのように進展させるか、現段階の中期的な方針・計画を下記の例のような形式で記載すること。

時期（予定）	主な活動予定
〇〇年〇月	〇〇において、寄書の入力
〇〇年〇月～	〇〇において標準素案のドラフティング作業
〇〇年〇月	〇〇において標準化提案の採択手続
〇〇年〇月	当該標準を使った製品化または実用化

(4) アウトカム達成に向けた取組計画

本件調査の結果、最終的に達成する目標に向けた計画を100字程度で記載すること。

7. 調査費用

(1) 支給要望額

税抜の金額で記載すること。

(2) 調査費用内訳

下記のような表形式で、費用の内訳、算出根拠を記載してください。

- 参加会合の場所、期間、会合参加者氏名は必ず記載願います。渡航費、滞在費等の算出にあたっては総務省旅費規程を参照願います。同規程の基本的な事項については別紙2をご覧ください。
- 調査報告書作成費は、報告書作成に係る工数（人日）に、報告書作成者の以下の役職区分に応じた単価を乗じた金額にてご提案ください。報告書作成者が複数の場合、複数分記入して下さい。

役職区分	想定する役職イメージ	使用する単価(税抜)
部長相当（教授相当）	部門を統括する役職、またはそれ以上の役職	45,440円/人・日
課長相当（准教授相当）	業務を統括する役職	41,600円/人・日
業務担当者相当（講師相当）	上記以外の役職	30,080円/人・日
学生相当	学生	10,800円/人・日

・提案者が大学の場合で間接的費用が発生する場合、それは一律直接的費用の10%とします。提案者が大学以外の場合には調査活動に関わる直接的な費用以外は支給対象とはしません。）

調査活動項目および参加者	算出根拠	所要費用 (概算、税抜)
〇〇フォーラム第〇回〇〇会合 ・〇〇国〇〇市、〇月〇日～〇日、5日間 ・参加者氏名:〇〇 〇〇	・渡航費:240,000円 ・滞在費等:720ユーロ(90,000円) ・参加費等:100ユーロ(12,500円)	342,500円
〇〇フォーラム第〇回〇〇会合 ・〇〇国〇〇市、〇月〇日～〇日、5日間 ・参加者氏名:〇〇 〇〇	・渡航費:240,000円 ・滞在費等:720ユーロ(90,000円) ・参加費等:100ユーロ(12,500円)	342,500円

〇〇フォーラム第〇回〇〇会合 ・〇〇国〇〇市、〇月〇日～〇日、5日間 ・参加者氏名:〇〇 〇〇	・渡航費:240,000円 ・滞在費等:720ユーロ(90,000円) ・参加費等:100ユーロ(12,500円)	342,500円
調査報告書作成費	・〇〇〇〇(報告書作成者氏名) 41,600円(准教授相当)×5人日	208,000円
小計		1,235,500円
間接的費用	<input checked="" type="checkbox"/> 必要(大学)(一律合計の10%) <input type="checkbox"/> 不要(大学)、対象外(大学以外)	(一律小計の10%)
合計		1,359,050円

#### 8. 所属企業・団体及びその概要

所属団体名及び団体概要の説明を記載すること。団体概要については100字程度で記載すること。

#### 9. 調査者の詳細、アピールポイント

下記の表形式で、調査者および調査者区分(2(2)項対象者参照)、調査者の所属・役職、従事する業務、主な業績・団体等参加状況、調査者が本調査に適していることを示すアピールポイント、調査実施後の業務への活用予定等を簡潔に記載下さい。調査者が複数の場合は行を追加してください。

氏名	調査者区分	所属・役職	調査者の経歴
	A～Cを記載		・XX年〇〇大学卒業 ・XX年〇〇入社 ・XX年〇〇で〇〇の開発に従事
本支援の利用経験の有無		調査での役割	標準化活動実績
〇〇年度 (案件名)		・〇〇を担当	・XX年(会合)で〇〇の標準化に従事

#### 10. 連絡先

(提案者(本提案の代表者で提案内容に責任を持ってご対応いただく方)及び事務担当(契約処理、費用確認処理に関してご対応いただく方)の、連絡先(氏名、所属、役職、住所、電話番号、携帯電話番号、メールアドレス)を記載)

##### (1) 代表者

氏名	
所属・役職	
住所	
連絡先	・電話番号 ・携帯電話番号 ・メールアドレス

##### (2) 事務担当

氏名	
所属・役職	
住所	
連絡先	・電話番号 ・携帯電話番号 ・メールアドレス

# 提案書（テンプレート）

## 1. 案件名

## 2. 調査活動の概要等

### (1) 調査活動の概要

### (2) 調査活動の目的

## 3. 技術分野

統合 ICT 基盤領域 （膨大な「モノ」を確 実につなぐ共通基盤 技術の標準化）	①物理ネットワーク層 <input type="checkbox"/> 光ネットワーク <input type="checkbox"/> 無線アクセス <input type="checkbox"/> その他（ ） ②共通プラットフォーム・マネジメント層 <input type="checkbox"/> 共通プラットフォーム <input type="checkbox"/> ネットワークソフト化 <input type="checkbox"/> セキュリテ ィ・プライバシー <input type="checkbox"/> AI/ML（人工知能/機械学習） <input type="checkbox"/> その他 （ ）
サービス/ビジネス領 域 （共通基盤技術をベ ースに新ビジネス・サ ービスを創出するた めの標準化）	①固定系 IoT <input type="checkbox"/> スマートホーム <input type="checkbox"/> スマートシティ <input type="checkbox"/> その他（ ） ②移動系 IoT <input type="checkbox"/> コネクテッド・カー <input type="checkbox"/> スマートファクトリー <input type="checkbox"/> その他（ ） ③映像・コンテンツ系 IoT <input type="checkbox"/> デジタルサイネージ <input type="checkbox"/> スマートテレビ <input type="checkbox"/> その他（ ）

## 4. 調査対象標準化機関・団体

## 5. 調査活動の詳細

### (1) 調査活動の詳細内容

### (2) 提案予定の有無及びその内容

有 無

（「有」の場合はその内容）

### (3) 支援の必要性

### (4) その他アピールポイント

6. 調査活動のスケジュール

(1) 調査のスケジュール

時期（予定）	調査活動項目	主な活動予定

(2) 今年度調査のアウトプット目標

(3) 来年度以降の標準化活動方針・計画

時期（予定）	主な活動予定

(4) アウトカム達成に向けた取組計画

7. 調査費用

(1) 支給要望額

円（税抜）

(2) 調査費用内訳

調査活動項目および参加者	概算費用および算出根拠	金額(税抜)
		円
		円
		円
調査報告書作成費		円
小計		円
間接的費用	<input type="checkbox"/> 必要（大学）（一律合計の10%） <input type="checkbox"/> 不要（大学）、対象外（大学以外）	（一律小計の10%）
合計		円

8. 所属大学・企業・団体名およびその概要

(1) 大学・企業・団体名

(2) 団体の概要

9. 調査者

氏名	調査者区分	所属・役職	調査者の経歴
本支援の利用経験の有無		調査での役割	標準化活動実績

氏名	調査者区分	所属・役職	調査者の経歴
本支援の利用経験の有無		調査での役割	標準化活動実績

\* 必要に応じて、欄を追加して記入のこと。

10. 連絡先

(1) 代表者

氏名	
所属・役職	
住所	
連絡先	<ul style="list-style-type: none"> <li>・電話番号</li> <li>・携帯電話番号</li> <li>・メールアドレス</li> </ul>

(2) 事務担当

氏名	
所属・役職	
住所	
連絡先	<ul style="list-style-type: none"> <li>・電話番号</li> <li>・携帯電話番号</li> <li>・メールアドレス</li> </ul>